

ヨコレイ NOTE VOL.18

第70期中間報告書

平成28年10月1日～平成29年3月31日

ごあいさつ・財務ハイライト (P1)

What's ヨコレイ VOL.5
農産物の高品質一貫流通 (P2)

営業の概況・事業別の概況 (P3)

中間連結財務諸表(要約) (P4)

会社情報 (P5)

シリーズ企画
世界の食事情⑤ 冷凍食品の生産と消費 (P6)

「食の安全・安心」が家族の笑顔をつくる



「人」に「もの」に「地球」に “優しい” 食品流通のエキスパート

第70期中間期(平成28年10月1日から平成29年3月31日まで)の経営環境は、企業収益・雇用環境の改善が進み、ゆるやかな回復基調で推移しました。しかしながら、個人消費は依然として力強さに欠け、人手不足による労働需給の逼迫感は景気の制約要因となってきました。世界経済を見ると、米国新政権における政策の不確実性の影響や、世界各地で発生する地政学リスクが懸念されるなど不安定要因が潜在しています。

冷蔵倉庫事業は、当期初より堅調な荷動きが続き入在庫量は計画を上回って推移しています。しかし、保管在庫につきましては、前期初は高水準でスタートしたのに対し、当期初は例年並みの在庫水準となったため、冷蔵庫収入は前期比では減収となりました。食品販売事業は、前期の畜産品の需給悪化が回復し利益率は改善しました。また、当連結累計期間から連結対象となりましたノルウェーの鮭鱒養殖事業も収益を底上げしました。

当社グループは、平成26年10月にスタートさせました第五次中期経営計画「Flap The Wings 2017」(3ヵ年)が最終年度を迎え、冷蔵倉庫事業では「COOL」ネットワークのリーディングカンパニーを目指し、食品販売事業では「安定的な利益追求を基本としながらも、強みのある商材を全社的に展開する」ことを命題として、最終年度の目標達成に向け、事業運営方針の各施策に注力しています。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **西山 敏彦**

ダイヤモンド十勝が栽培する

「西洋わさび」とは？

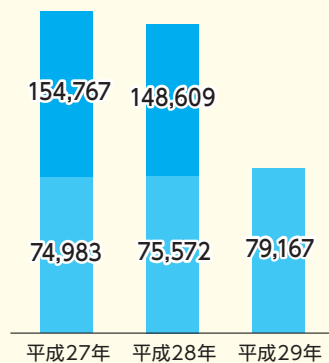
「ホースラディッシュ」「山わさび」とも呼ばれるヨーロッパ原産の多年性植物で、鼻にツンとくる辛味があり、西洋料理では特にローストビーフに欠かせない薬味です。日本では北海道が主な産地で、5月頃に植え付け、11月頃に収穫されます。



財務ハイライト

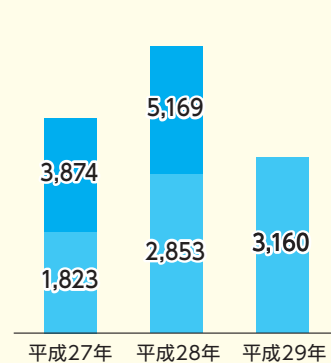
売上高 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



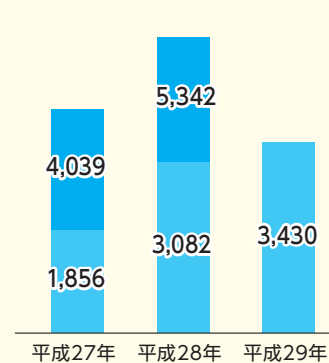
営業利益 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



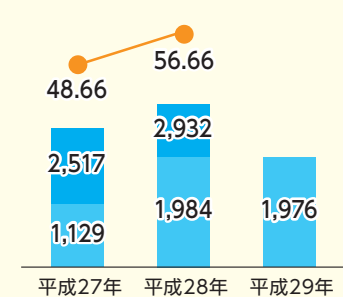
経常利益 (百万円)

■ 中間 ■ 通期



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益(百万円) / 1株当たり当期純利益(円)

■ 中間 ■ 通期 ● 1株当たり
当期純利益



生産者と手を結び、十勝の農産物を全国へ

《グループ企業「ダイヤモンド十勝」の取り組み》

生産から販売までのプロセスを一体化
ファンドの出資を受け、機械・設備を増強

2014年に設立されたダイヤモンド十勝株式会社は、当社拠点との連携により十勝産農産物の生産から選果、保管、販売までの一貫体制を確立した農地所有適格法人です。2017年3月には「北洋農業応援ファンド」の出資を受け、西洋わさびやばれいしょの生産や選別に用いる機械・設備の増強を予定しています。

Point
1

ダイヤモンド十勝の加工拠点機能 「十勝ソーティングスポット」

当社は、十勝第三物流センターに隣接する十勝ソーティングスポットをダイヤモンド十勝に一括貸与しています。西洋わさび、キャベツ、スイートコーンなどの集荷・選別設備として機能し、農産物の鮮度を落とさずに流通させる高付加価値サービスを提供します。



Point
2

当社の物流センターとの 緊密な連携体制

2016年8月、北海道河西郡芽室町に十勝第三物流センターが竣工し、既設2センターと合わせ道内最大級の低温物流基地を形成。緊密な連携でダイヤモンド十勝のクールドチェーンを支えます。



生産

契約農家に苗を提供し、栽培を委託する多彩な農産物に加え、西洋わさびも生産。農作業の受託業務も行っています。



選果

Point
1

収穫物を市場供給するための選果・加工・パック機能を十勝ソーティングスポットが一貫提供。農家の作業負担を軽減します。



保管

Point
2

収穫した野菜の保管場所となる十勝物流センターでは、収穫時そのままの鮮度を極力維持すべく、保管する野菜ごとに冷蔵・冷凍の温度設定を行い、品質管理を徹底しています。

販売

収穫した野菜に関する販売管理・販売促進などの業務を実施。流通業者や加工業者への供給窓口として機能します。



営業の概況・事業別の概況



営業の概況

当中間期の概況

冷蔵倉庫事業は、堅調な荷動きが続き入在庫量は計画を上回り推移するも、前期比では在庫水準は減少。

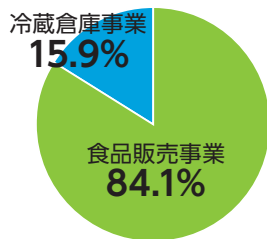
食品販売事業は、前期、畜産品の需給悪化により利益率が低下しましたが、当期は回復し利益率が改善。

当連結累計期間から連結対象となったノルウェーの鮭鱒養殖事業が収益を底上げ。

事業別売上高構成比

当中間期（平成29年3月期）
売上高合計

79,167百万円



今期の見通しと業績予想

冷蔵倉庫事業は、引き続き堅調に荷動きが推移し、在庫水準も改善すると見込んでいます。食品販売事業は、畜産品の利益率が改善し、ノルウェーの鮭鱒養殖事業も収益を底上げするものと思われます。以上を前提に、通期の連結業績については、下記の通り従来予想を継続します。

売上高	1,650	億円
営業利益	57	億円
経常利益	57	億円
親会社株主に帰属する当期純利益	32	億円
1株当たり当期純利益	61	円83銭

事業別の概況

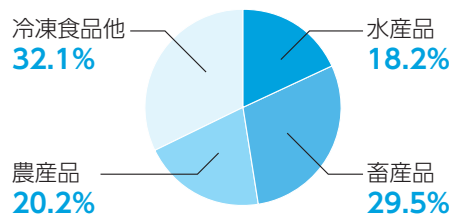
冷蔵倉庫事業

荷動きが堅調に推移し、また近年順次稼働した物流センターの稼働率は向上しましたが、前期比で在庫水準が減少したことや減価償却費の増加、閉鎖を決定した子安物流センターの収入剥落などから減収減益。

入庫取扱量は前年同期比で約17千トンの増加、出庫取扱量は同約15千トンの増加、平均保管在庫量は同約115千トンの減少。

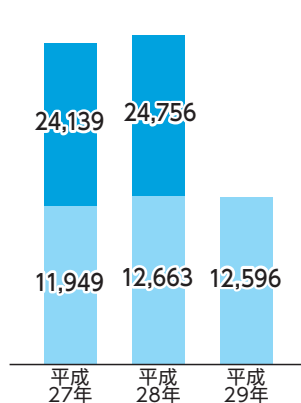
当事業の業績は、売上高12,596百万円(前年同期比0.5%減)、営業利益3,065百万円(前年同期比6.1%減)。

当中間期在庫量品目別割合



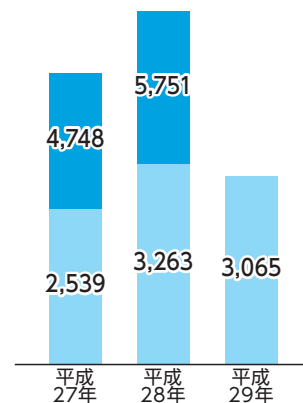
売上高

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



営業利益

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



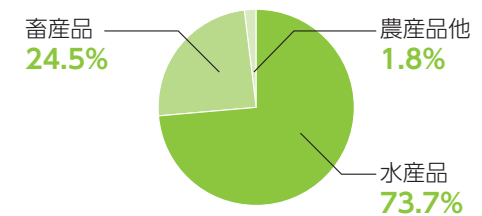
食品販売事業

水産品は、鮭鱒類、サバ、ホッケが取扱量を増加させ収益に貢献。一方、価格高騰が続くカニ、天候不良の影響を受けたホタテは利益率が低下。

畜産品は、チキンが大きく利益を改善。ポークも外食向けに積極的な販売を展開し収益に寄与。農産品は、馬鈴薯、玉ねぎが、大きく生産量を減少するも効率的な販売により、利益は横ばい。

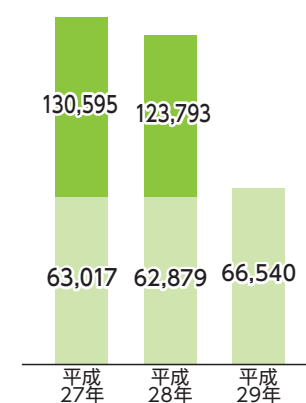
当事業の業績は、売上高66,540百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益1,262百万円(前年同期比86.0%増)の増収増益。

当中間期品目別売上高構成比



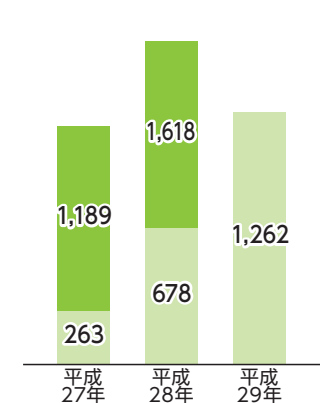
売上高

■ 中間 ■ 通期 (百万円)



営業利益

■ 中間 ■ 通期 (百万円)

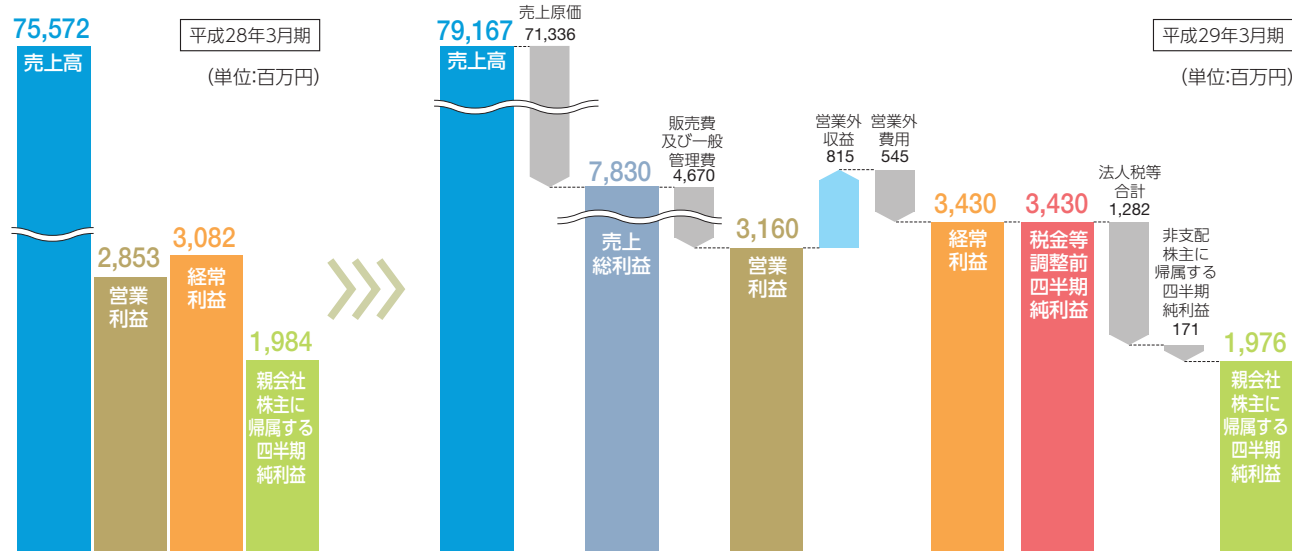


中間連結財務諸表(要約)



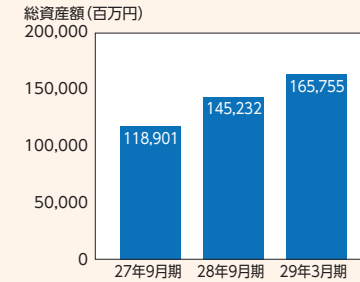
中間連結財務状況

◆ 損益の状況

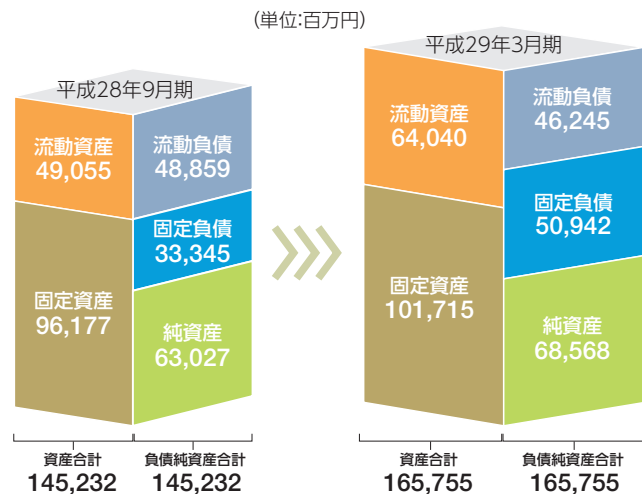


POINT 1 総資産が大きく増加

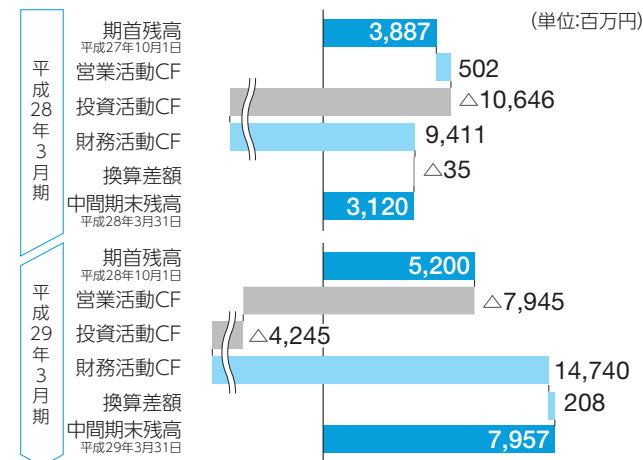
ノルウェー事業進展による仕入れ増に伴う前渡金の増加や、一部ハイブリッドローンの現預金への滞留などによる流動資産の増加に加え、ノルウェーの養殖会社のM&Aに伴う養殖事業ライセンスやのれん代の計上などにより固定資産も増加し、総資産は1,657億55百万円となりました。



◆ 資産・負債・純資産の状況

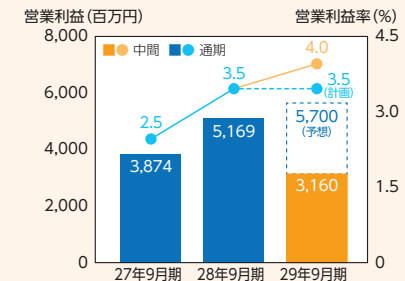


◆ キャッシュ・フローの状況



POINT 2 営業利益率が予想を上回る進捗

売上高に対する営業利益の割合は、通期で3.5%を見込んでいます。第2四半期までの数値は、食品販売事業の利益が前期に続き順調に増加したことから、4.0%まで上昇しております。引き続き通期における計画のクリアを目指します。





会社概要 (平成29年3月31日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社

本社所在地 〒220-0012
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいブランドセントラルタワー7階
TEL: 045-210-0011 (代表)
FAX: 045-210-0018

設立 昭和23年5月13日

資本金 11,500,426,625円

従業員数 連結 1,422名 単独 1,040名

業務内容

1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
4. 不動産賃貸業
5. 通関業
6. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
7. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
8. その他前各号に付帯関連する一切の事業 (定款における事業目的)

役員および執行役員 (平成29年3月31日現在)

代表取締役会長	吉川 俊雄	常勤監査役(社外)	阿部 博康
代表取締役社長	西山 敏彦	監査役(社外)	棚橋 栄蔵
常務取締役	岩渕 文雄	監査役(社外)	西元 徹也
常務取締役	井上 祐司	上席執行役員	田中 明彦
取締役	松原 弘幸	執行役員	飯島 敏正
取締役	千田 重賢	執行役員	岩倉 正人
取締役	越智 孝次	執行役員	藤五 俊治
取締役	花澤 幹夫	執行役員	安田 正美
取締役	池田 浩人	執行役員	車谷 哲男
取締役	野崎 博嗣	執行役員	内山 卓爾
取締役(社外)	加瀬 兼司	執行役員	吉田 豊
取締役(社外)	酒井 基次	執行役員	古瀬 健児
常勤監査役	中西 啓文	執行役員	鈴木 大介

ネットワーク (平成29年3月31日現在)

冷蔵倉庫事業 44拠点

北海道・東北ブロック

十勝物流センター
十勝第二物流センター
十勝第三物流センター
石狩物流センター
石狩第二物流センター
喜茂別物流センター
八戸物流センター
気仙沼冷凍工場
仙台営業所
仙台物流センター

圏央ブロック

加須物流センター
加須第二物流センター
鶴ヶ島物流センター
伊勢原物流センター

京浜ブロック

東京物流センター
東京第二物流センター
大黒物流センター
横浜物流センター
子安物流センター
山内物流センター

中京・東海ブロック

沼津物流センター
大井川物流センター
小牧物流センター
名古屋物流センター
中川物流センター

阪神ブロック

夢洲物流センター
北港物流センター
舞洲物流センター
西淀物流センター
神戸物流センター
六甲物流センター

九州ブロック

福岡物流センター
箱崎物流センター
鳥栖物流センター
鳥栖第二物流センター
唐津冷凍工場
長崎冷凍工場
佐世保冷凍工場
都城物流センター
都城第二物流センター
志布志物流センター
鹿児島物流センター
川辺物流センター

枕崎冷凍工場
山川冷凍工場

食品販売事業 20拠点

十勝営業所
札幌営業所
八戸営業所
気仙沼冷凍工場
仙台営業所
茨城営業所
銚子営業所
東京営業所
東日本畜産営業部
西日本畜産営業部
沼津営業所
名古屋営業所
大阪営業所
福岡営業所
松浦駐在
唐津営業所
長崎営業所
佐世保冷凍工場
枕崎冷凍工場
鹿児島駐在

連結子会社

株式会社アライアンスシーフーズ
株式会社クローバートレーディング
THAI YOKOREI CO.,LTD. (タイ)
ワンノイ物流センター
ワンノイ物流センター2号棟
バンパコン物流センター
バンパコン第2物流センター
サムロン物流センター
BEST COLD CHAIN CO.,LTD. (タイ)
Syvde Eiendom AS (ノルウェー)
HIYR AS (ノルウェー)
Fjordlaks Aqua AS (ノルウェー)

非連結子会社

株式会社グローバルエイジェンシー
パックス冷蔵株式会社
Yokorei Co., Ltd. (タイ)

株式の状況 (平成29年3月31日現在)

発行可能株式総数 160,000,000株

発行済株式の総数 53,365,694株

株主数 12,137名

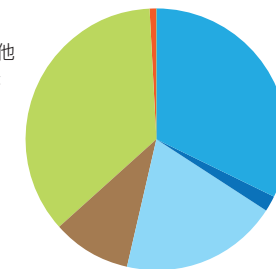
大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	2,205	4.15
株式会社横浜銀行	2,176	4.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,125	4.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,580	2.98
農林中央金庫	1,473	2.77
株式会社八丁幸	1,411	2.66
横浜冷凍従業員持株会	1,129	2.12
株式会社松岡	1,127	2.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,063	2.00
株式会社サカタのタネ	1,022	1.92

(注) 持株比率は自己株式(333,774株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

■ 政府・地方公共団体	■ 外国法人・外国人
1千株	5,256千株
0.0%	9.9%
■ 金融機関	■ 個人・その他
17,250千株	19,113千株
32.3%	35.8%
■ 金融商品取引業者	■ 自己名義
1,106千株	333千株
2.1%	0.6%
■ その他の国内法人	
10,304千株	
19.3%	



手軽さが魅力、高品質化も進む冷凍食品

現代人の食生活を支える強い味方、冷凍食品。我が国では、家庭用・業務用ともに冷凍食品の国内生産量が1,300千トン以上の一定の規模で推移し、輸入冷凍食品を含めた全体の消費量も増加傾向にあります。近年の動向をチェックしてみましょう。

■日本人になくてはならない食品として浸透

日本では、核家族化や共働きなどライフスタイルの変化とともに、調理の手間が省け、買い置きもできる冷凍食品が家庭の食卓に浸透してきました。その需要は近年、少子高齢化が進行する中で拡大しています。

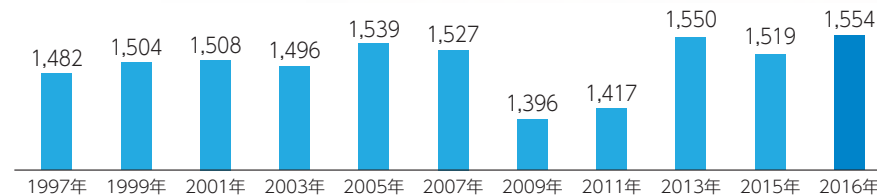
冷凍食品の国内生産量は、2016年に1,554千トンとなり、1997年から72千トン増加しました。国民1人当たりの冷凍食品消費量は、20年前と比べて23%以上増加の21.1kgとなり、もはや日本人になくてはならない存在と言えます(以上、数値は一般社団法人日本冷凍食品協会発表)。

国内における冷凍食品の拡大は1964年、東京オリンピック選手村の食堂で利用され、好評を得たことがきっかけと言われています。その後、高度経済成長期には家庭用冷蔵庫、

1980年代には電子レンジが一般家庭に普及することで家庭用の調理済み冷凍食品が大きく成長しました。現在では、各メーカーが多種多様な商品を販売し、そのままお弁当に入れて自然解凍させるタイプなどの利便性を高めた商品や、高級・高品質を訴求する商品も増えています。購入場所は、スーパーとコンビニエンスストアに加え、ドラッグストアにも広がってきました。

当社は、冷凍食品の高品質化が求める保管レベルの高度化に対応し、消費の拡大を支えていきます。

冷凍食品の国内生産量(単位：千トン)



クローズアップ! ヨコレイLADY

ヨコレイの社員として母親として これからも仕事と子育てを両立していきます。

私は2005年の入社以来、食品販売事業の畜産部門に所属し、現在まで12年間総合職として営業の仕事を行っています。2011年に結婚、2014年に長女を出産しましたが、以前から結婚・出産後も退職せずに仕事を続けていく考えでしたので、育児休暇を取得しました。

育休からの復帰後は、子育てと仕事の両立に対する負担軽減を配慮していただき、それまでのビーフ担当から人員の多いポーク担当に異動しました。娘が3歳の誕生日を迎えるまで有効な時短勤務制度を利用し、通常勤務より2時間短い9時出社・16時退社で働いており、そのあいだ娘は保育所に預けています。仕事が予定通りに終わらない時や、娘が急に体調を崩して会社を休まなければならない時など、職場の上司や同僚

にサポートしてもらうことも多く、心強く感じています。

仕事内容は、前日の残務整理とメールチェックに始まり、商品の発注やお取引先との商談、外回り、時には日帰り出張もあります。出張予定が入った時は、娘の急病等に備え、夫に協力してもらうことが不可欠です。

復帰後、徐々に業務を増やしていきましたが、やはり子育てと仕事の両立は体力的にきつく、娘が体調を崩しがちな時期は苦労が多かったです。今は娘も2歳半となり、最近では母親が仕事をしていることを理解しつつあるようです。

今後もやりがいのあるこの仕事を長く続けたいです。また、社内にもっとママさん社員が増えてほしいですね。

東日本畜産営業部 係長 菅野 愛子



"横浜FC"とオフィシャルクラブトップパートナー契約を締結

当社は、サッカーJ2リーグに所属する"横浜FC"とのオフィシャルクラブトップパートナーの契約を締結いたしました。横浜FCは、横浜市を本拠地とするJリーグ加盟のサッカークラブです。1998年に、横浜フリューゲルスと横浜マリノスの合併で消滅したフリューゲルスのサポーターをはじめとする多くのスポーツファンの熱い思いから誕生。2006年にはJ2リーグ優勝しJ1昇格も果たした伝統と実力を兼ね備えたクラブです。当社は、トップチームユニフォーム背中裾部分およびパンツ部分に、当社のロゴを掲出するとともに、スポンサーシップを通じてスポーツ振興と地域社会への貢献を目指します。ファン・サポーターの皆さまと"市民のための市民のクラブ 横浜FC"を応援していきます。



@YOKOHAMAFC

株主還元方針

■ 配当方針

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の実施を重要な経営課題の一つとして認識し、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としています。企業価値向上に必要な設備・IT投資等を勘案しつつ、1株当たりの年間配当20円を維持していくことを目標としています。

1株当たり年間配当金

20円 (中間配当金 10円)

■ 株主優待

当社は、株主の皆さまからのご支援に対する感謝とヨコレイグループの事業内容をご理解いただくため、年1回、ヨコレイグループ取扱商品を以下の基準でお届けいたします。

対象株主 毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上保有の株主さま。

実施時期 11月下旬から発送を予定しています。

(1) 1,000株以上～3,000株未満保有の株主さま

(2) 3,000株以上保有の株主さま

「ノルウェーサーモン詰合せ」※2016年実績
アトランティックサーモン切身皮付き(約450g)
アトランティックサーモン切身皮無し(約450g)
スモークサーモン(50g×3パック)

「北海道産のホタテ・いくらセット」
いくら醤油漬(500g)
生食用ホタテ貝柱(1,000g)



株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月 定時株主総会の議決権 9月30日
基準日	剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
電子公告	電子公告
公告の方法	※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 http://www.yokorei.co.jp/irnews/
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所(第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話: 0120-232-711 (フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

▶ <http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。また、食の安全・安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介しております。ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。



TOPページ

IRページ

